

今、何の病気が流行しているか！

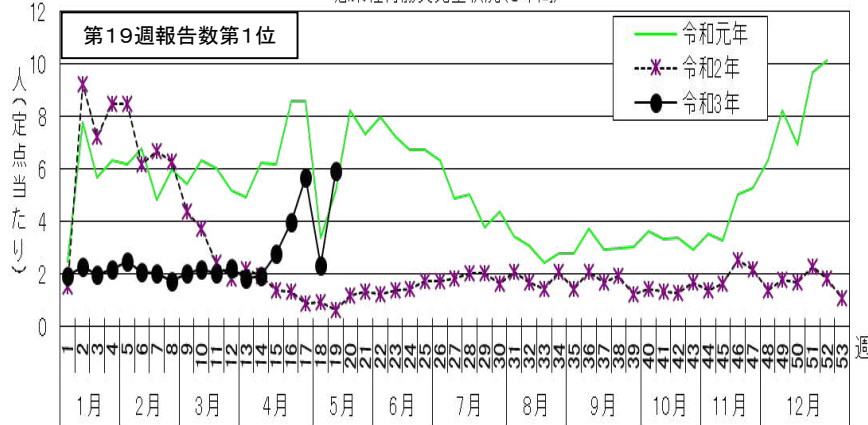
【感染症発生動向調査事業から】

令和3年5月10日（月）～令和3年5月16日（日）〔令和3年第19週〕の感染症発生状況

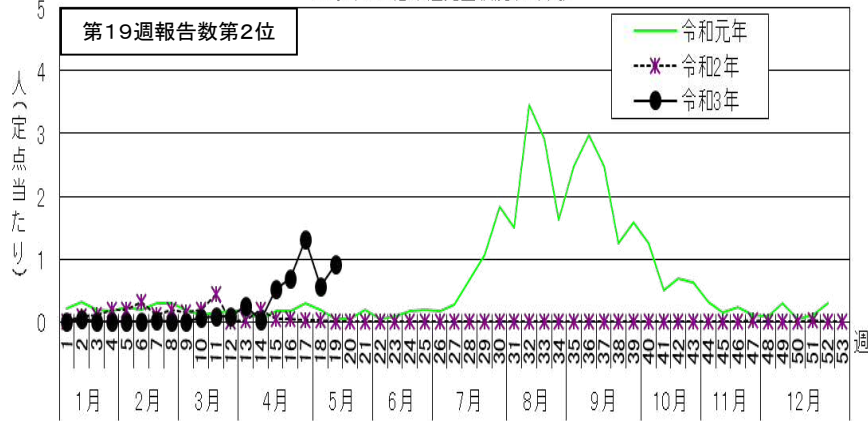
第19週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)RSウイルス感染症 3)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は5.89人と前週（2.29人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は0.91人と前週（0.57人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.46人と前週（0.17人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



RSウイルス感染症発生状況(3年間)

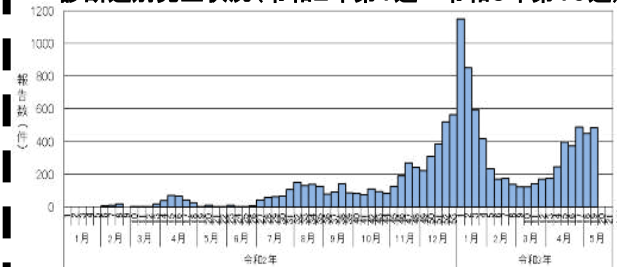


変異ウイルスの流行状況～新型コロナウイルス感染症～

現在、全国各地で新型コロナウイルス感染症の報告数が増加しています。新型コロナウイルスは変異を起こしやすく、特にウイルス表面のSタンパク質と呼ばれる突起の部分に変異することで、感染力やワクチン効果などに影響を及ぼします。我が国では、これまでに数種類の変異ウイルスが報告されていますが、感染力や重症化リスクが従来よりも高いといわれるN501Y領域に変異を起こした英国由来のウイルスが、徐々に現在の流行の主流となっています。この変異ウイルスは川崎市内でも検出されており、川崎市健康安全研究所の検査では、直近1週間は66.3%、前週が74.0%と7割前後で推移しています。

変異ウイルスであっても感染対策は変わりません。こまめな手洗いや手指消毒を行うとともに、密な場所では正しいマスクの着用を徹底しましょう。

川崎市における新型コロナウイルス感染症の診断週別発生状況(令和2年第1週～令和3年第19週)



川崎市健康安全研究所におけるN501Y変異を有する新型コロナウイルスの検出状況

集計期間	直近1週間 (令和3年5月10日～5月16日)	前週 (令和3年5月3日～5月9日)	累計 (令和3年3月11日～5月16日)
検査実施数	83件	73件	534件
検出数	55件	54件	300件
検出率	66.3%	74.0%	56.2%

川崎市ホームページ「新型コロナウイルス感染症モニタリング状況」参照

ファイザー社製の新型コロナウイルスワクチンについて
 現在使用されている新型コロナウイルスワクチンは、21日間間隔で2回接種します。2回目の接種から7日目以降に高い発症予防効果を獲得するといわれています。

